

教学设计

初級中学向け：わたしの家

言語学習目的：

- 家の中の部屋や空間の言い方を知る。
- 家の間取り図を簡潔に説明することができるようになる。

文型：～に～があります、ここは～の部屋です

語彙：隣、左、右、部屋の名前（台所、ダイニングルーム、リビングルーム、子ども部屋、和室、玄関、洗面所、お風呂場、押入れ）など

言語以外の学習目的：

- 日本の住宅事情を知る。
- 家の各部屋の機能について考える。
- 普段何気なく生活している空間である「家」を意識化する。

使用時間：40～50分

用意するもの：『今日日本』、付録1「間取り図」、模造紙

『日語』で関連のある課：7年級下冊第5課（すみません、郵便局はどこですか）

□ 事前準備

- (1) 授業の1週間前に「今日日本」を教室の壁に張る。
- (2) 付録1の間取り図①をコピーして、生徒一人ひとりに配付する。教室に張った「今日日本」の図と写真を見ながら、空欄になった部屋の名前を間取り図①に書き込み、次の授業に持ってくるように指示する。
- (3) 教師は、「今日日本」の間取り図と同じものを大きな紙に描いておく。

□ 授業の進め方

1. 導入

- (1) 教師は、予め用意しておいた間取り図を黒板に張り、次のような質問をする。

発話例

- これは、何ですか。

- (2) 生徒の考えを聞いたところで、間取り図について簡単に説明する。

発話例

- これは、間取り図です。(間取り図)を見ます。どんな部屋がありますか、どこにありますか、が分かります。)

ヒント

間取り図がどんなものであるかの説明は母語でよい。

2. 部屋の位置や機能を説明する

- (1) 教師は、間取り図の各部屋を指差しながら、その部屋を何というか生徒に尋ねる。

発話例

教師：ここは何ですか。

学生：そこは玄関です。

教師：ここは何ですか。

学生：そこは和室です。

- (2) ～の隣(左、右)に～があります」を用いて、部屋の位置関係を説明する例を挙げる。

発話例

- ここは玄関です。玄関を入ります。右に洋室があります。

- ここは洗面所です。その隣に浴室があります。

- (3) 次に、生徒に質問をして、生徒に説明させる。

発話例

- (部屋の名称)の隣に何がありますか。

ヒント

必要に応じて部屋の機能について補足説明をする(3頁資料参照)。

3. 間取りの表し方を説明する

- (1) 教師は、黒板に張った間取り図の近くに「3LDK」と書き、それが何であるか尋ねる。

発話例

- これは、何ですか。

- (2) 次に教師は、それが部屋の数と構造であることを説明する。また、リビングルームのない家の場合は○DK、リビングルームもダイニングルームもない場合は○Kと表示することを説明する。

発話例

- これは、部屋の数と種類です。Lはリビングルーム(居間)です。Dはダイニングルーム(食堂)です。Kはキッチン(台所)です。最初の数字は、この3つの部屋以外の部屋の数です。お風呂場やトイレは数えません。

- (3) 次に付録1の間取り図②③を配る。教師は黒板の間取り図が3LDKであることをもう一度確認してから②③はどう表すかを答えさせる。

発話例

- これは、3LDKです。②はどう表しますか。③はどう表しますか。

答案

- ② 1K ③ 2DK

ヒント

生徒の日本語力のレベルによっては、(2)の説明と(3)の質問は母語で行う。

4. 自宅の間取り図を発表する

- (1) 少し大きめの紙を配り、生徒に自宅の間取り図を描かせる。この時、関連する語彙を板書する。

ヒント

自分の家の間取り図を描いたり、家族について話したりしたくないという生徒には、自分が考える理想の家や家族について語らせてもいい。

- (2) 描き上がったら、4～5人のグループに分け、グループ内で1人ずつ自宅の間取り図を見せながら、「ここは～です」「～の隣(左、右)に～があります」を用いて説明させる。

- (3) グループ内で発表をしているとき、教師は教室を回って生徒の発表を聞きながら次のような質問を投げかけ、家と家族とのつながりについても考えさせる。

発話例

- そこは誰の部屋ですか。
- その部屋に誰かいますか。
- その部屋で何をしますか。
- 家に帰ります。最初にどの部屋に行きますか。
- ～さんは、どの部屋がいちばん好きですか。

ヒント

様々な質問をすることで学習者の話を広げたり、家族とのつながりを考えさせたりすることが可能なので、いろいろな質問を投げかけたり、学習者同士で質問させるといい。また、教師の質問事項を予めワークシートにまとめておき、学習者同士でそれを質問して書かせてもいい。生徒の日本語のレベルに応じてこの時の質問は母語でもいい。

5. まとめ

高級中学向け：家族の絆

言語学習目的：

- 家族に関する意識調査のグラフを見ながら簡潔に説明することができるようになる。
- 資料から読み取れる内容から推察して自分の意見を述べるができる。

文型：～と答える、～と考える、～ということが分かる、～についての

語彙：グラフ、全く、どちらかといえば、無回答、勤め人、起床在宅率など

言語以外の学習目的：

- 現代日本人の家族観・家庭観の一端について知る。

□ 事前準備

- (1) 授業の1週間前に、『今日日本』を教室に張っておき、それが次週勉強する内容であることを生徒に告げ、読んでおくように指示する。
- (2) 付録2の4種類のグラフ(2-1、2-2、2-3、2-4)を、それぞれグループの数と同じ枚数ずつコピーしておく。この活動は4人1グループで行うことが理想なので、例えば40人クラスの場合、10グループに分けられるので、それぞれのグラフを10枚ずつ用意する必要がある。また、あとでグループ分けがしやすいように、4種類のグラフにそれぞれ枚数分の丸番号(10枚なら①～⑩)を小さく付ける。
- (3) 付録1の「グラフから読み取れること」をクラスの人数分コピーしておく。

□ 授課過程

1. 導入

- (1) 教師は、クラス全体に向かって次の3つの質問を順にして、生徒に答えさせる。

発話例

- 皆さん、『今日日本』を読みましたか。写真もたくさん載っていますね。写真に写っている人たちは家は何をしていますか。
- 写真の人は家族とどんな話をしていると思いますか。
- 皆さんは最近、ご両親や家族とどんな話をしましたか。最近ご両親や家族と一緒にしたことは何かありますか。

最後にまとめとして、教師は次の発話をして、今日学習した文型で言えるようになったことや、家を通して家族との関係を再確認したことを述べる。

発話例

- みなさんの家を説明できるようになりました。家を見ると、家族とのつながりが分かります。

【発展学習】

間取りの言い方、部屋の広さの尺度、間取りと方角の関係、人気のある部屋、家の構造によって家族のあり方が変わることなどについて母語で話し合わせることもできる。

執筆：荒川洋平氏（東京外国語大学助教授）、吉田佳世氏（東京外国語大学博士前期課程）。TakarabakoNo.5に掲載された授業案を一部編集しました。

- 自分と両親、自分と家族とのあり方を再認識する。

使用時間：40～50分

用意するもの：「今日日本」、付録1の「4つのグラフはこう読む」、付録2のグラフ4種類(2-1: 家族を第一に考えるか、2-2: 家とはどんな場所か、2-3: 家族それぞれの起床在宅率、2-4: 親子の絆が弱まってきているか)

『日本語』で関連のある課：第1冊第11課(サラリーマンの暮らし/コラム: 日本的各式住房)、第12課(コラム: “昼” “ふすま” 和 “障子”)、第13課(コラム: “玄関”)、第3冊第7課(コラム: 日本的家庭)

ヒント

『今日日本』に載っている写真について考えさせたり、想像させたりしながら、話題を展開し、徐々に生徒自身の家族に引き寄せて行くことで、「家」は国が違っても大事な生活の場であることに気づかせる。

- (2) 生徒自身の家族について思い出させて、ノートに書かせる。

発話例

- ご両親や家族と最近話した内容や最近一緒にしたことなどを思い出して、ノートに書いてください。
- (3) 教師は、生徒がノートに書き出した内容を尋ね、何人かの生徒に言わせる。

発話例

- どんなことを書きましたか。では、誰か教えてください。

ヒント

自分と家族の関わりはどうかをノートに書き出し、明確に意識化することで、グラフで示されている日本の家族像を具体的にイメージし、理解を深める手がかりとなる。ここでは日本語を書く練習をさせることが目的ではないので母語で書かせてもよい。

2. グラフを読みとる活動

- (1) 教師は、次の活動に移るための説明をする。

発話例

- それでは、もう少し日本の家族について考えてみましょう。ここに、日本人の家族についての調査結果があります。日本人の「家庭」や「家族」に関する考え方が分かるグラフです。では今から皆さんに配ります。

- (2) 教師は、用意しておいたグラフ(2-1、2-2、2-3、2-4)を配付する。

発話例

- グラフは4種類あります。1人1種類だけ取ってください。

ヒント

後のグループ活動がしやすいよう、予め4種のグラフよく交せてから、均等に行き渡るよう配る。生徒がグラフを選ばないように、上から1枚ずつ取って貰おう。

- (3) 生徒は、手にしたグラフを見てそこからわかることを読み取る。

発話例

- 皆さん、グラフが1種類だけありますね。では、まず、自分のグラフをよく見て、それはどんなグラフか、そのグラフから何が分かるか、自分で考えてみてください。

ヒント

ほかの生徒と見せ合わないで、自分で考えるように指示します。

- (4) 教師は、グループ活動に入るための指示を与える。

発話例

- どんなグラフか分かりましたね。では、次に、4人のグループを作ります。グラフは4種類ありますから、自分と違うグラフの人とグループになってもらいます。自分のグラフにある丸番号はグループの番号です。それぞれのグループがどこに集まるか、黒板に書きました。自分のグループの場所に行ってください。

ヒント

クラスの人数によっては、4人か5人のグループでよい。また、(3)で生徒が考えている間に、教師は各グループが座る場所を黒板に書いておく。

板書例：

- ① ② ③ ④
⑤ ⑥ ⑦
⑧ ⑨ ⑩

- (5) 教師は、グループ活動の内容を指示する。

発話例

- はい、4人ずつのグループになりましたね。では、自分のグラフについてグループのほかの人に説明してください。

ヒント

教師は、必要に応じて、説明するときに参考になる表現を板書する。

板書例：

- このグラフは…についてのグラフです。
- ここから…ということがわかります。
- __代では約__割の人が…と答えました。

- …と考える人の割合が多い/少ないです。
- …と答えた人は__%でもっとも多い/少ないです。

- (6) 生徒は、グループ内で自分のグラフについてそれぞれ発表しあう。

ヒント

ここでは互いにグラフを見せ合いながら発表してもよい。

- (7) ひと通り自分のグラフについての発表が終わったら、付録2の「グラフから読み取れること」を配付し、一文ずつ生徒に音読させる。

ヒント

音読させることで、文型や表現および調査結果の内容の確認ができる。

3. まとめ

- (1) 教師は次の課題を提示し、生徒の考えを深めさせる。

発話例

- 4つのグラフについて分かりましたね。では、今度は、グループのみんなで相談してください。その4つのグラフ全体から、日本の家族についてどんなことがわかりますか。それはどうしてだと思いますか。自分の家族と比較したりしながら、グループの中でいろいろ話し合ってみましょう。

ヒント

教師は各グループを回って話し合いの内容を聞きながら、さらに各自の思考が深められるよう手助けしたい。ここでの活動は母語でもかまわない。

- (2) 各グループで出た意見をいくつか発表してもらい、クラス全体で共有し合う。

ヒント

同じグラフを読んでいるのに、グループによって視点が異なるということを見出したり、中国の家族関係・親子関係はどうだろうか、では自分の家族は同じなのかちがうのかという観点も生まれてきたりするとおもしろい。

【発展学習】

「家族の絆」「私にとっての家族」「私の理想な家族」から一つを選ばせて、作文を書かせることもできる。

ヒント

自分の家族について触れたくない生徒や、「家族の絆」というテーマでは書けない生徒がいる場合もあるので、テーマを複数にして、書きやすいテーマを各自選択させたほうがよい。

執筆：有馬淳一（国際交流基金日本語国際センター専任講師）

資料：关于房间功能的补充说明

- ダイニング（ルーム）：ご飯を食べる部屋。多くの場合、台所と隣接しているか同じ部屋にある。
- リビング（ルーム）：家族が集まる部屋。家によっては、ここで勉強をするということもある。和室、洋室どちらの場合もある。「居間」とも呼ぶ。
- 風呂場／浴室：湯船と体を洗う所を合わせて風呂場（浴室）と呼ぶ。基本的に、風呂場、トイレ、洗面所はそれぞれ独立した部屋になっている。日本人は湯船にお湯を張って浸る習慣がある。
- 玄関：部屋から一段低くなっている。日本の場合、ここで靴を脱ぐ。靴を入れるものを下駄箱あるいは靴箱と呼ぶ。
- 和室：畳の部屋。押入れがあることが多い。
- 洋室：フローリングまたはじゅうたんの部屋。畳がない部屋。
- 押入れ：和室の部屋にある、もの入れ。和紙で作られた襖（ドア）で

区切られている。布団や座布団、普段あまり使わない物やシーズンオフの服、掃除機などがしまっている。洋室にあるもの入れは「クローゼット」と呼ぶ。木製の観音扉がついている。

- トイレ：便所とも言うが、直接的な言い方なのであまり使わない。以前は、「かわや」「はばかり」「手水」などという言い方もあったが、最近は「トイレ」「お手洗い」「化粧室」を使うことが多い。



クローゼット（洋室）



リビング（和室）

今回のテーマは、「家」です。人は一生の3分の1を眠って過ごすと言われますが、たいてい人はそれを自分の「家」でしすし、眠っている時間以外の過ごし方においても「家」は私たちの誰にとってもかけがえのない場所です。

30年前には「ウサギ小屋」に例えられ、また、ときには、「天国」の生活は中国人の食事をして、「地獄」の生活は日本人の家に住み...というジョークの種にもされるほど、日本の家屋は狭いことで有名ですが、肯定的に捉えれば、それは物理的な制約の中にもさまざまな機能がコンパクトに集約されている建物だという見方もできるかもしれません。

食生活同様、住生活も、中国の中学高校生たちにとって、日本という異文化を直に感じ興味を引かれる話題ではありますが、表面的な差異の比較にとどまらず、そこに見え隠れする日本の住文化や現代日本社会が抱える問題点、さらには、中国の住文化、そして自分にとって「家」とは何か、家族とは何か、授業ではそういったことから目を向ける契機にできるようにしたいものです。

まず、「わたしの家」の活動では、付録の「間取図」を用いて、3LDKの家の平均的な間取りについて学びますが、「お父さんはどこで寝ますか?」「お母さんは?」「では、食事はどこでしますか?」「子供が勉強する場所は?」など、教師が適宜助けを出しながら、「間取図」が単なる図面上での学習に終わらず、その空間で日本の家族が暮らしていることをイメージできるよう生徒たちの意識を持っていくように留意しましょう。

その過程で、「あれ? 日本の家にはトイレが1つしかないんだ」「トイレとお風呂が別々になっているね」などの「気づき」を得る、またそれはどうしてだろうということを考え始めてみる、そうした生徒が出てくるよ

うなクラス展開ができれば素晴らしいと思います。

また、「家族の絆」の活動では、家族・家庭に関する国民の意識調査に基づくデータを取り上げながら、現代日本の家庭観・家族観の一端をかいま見ることを企図しました。

家族みんながそろって家にいて起きている時間は夜の8時台と9時台に限られていること、最近親子の絆が弱まってきていると感じる人がどの世代も過半数を超えていることなど、一見すると、日本の家族がなんだかすべて暗い家族のように、なんだかみんながぼろぼろであるように、受け取られがちですが、もちろん決してそういうわけではありません。データはデータとして、傾向は傾向として、きちんと理解することが大切な一方で、そうでない家庭も当然あるだろうし、そうでない家庭も少なくないかもしれない、という視点を生徒たちには常に持たせることも素質教育を目指した教室づくりでは特に大切なことと言えるでしょう。

授業では、写真をふんだんに使って、日本の「家」や家族の様子を視覚的に理解できるようにしましょう。国際文化フォーラムの「TJF Photo Data Bank」(http://www.tjf.or.jp/photodatabank_j/)に生き生きとした写真が収録されているほか、国際交流基金日本語国際センターの「みんなの教材サイト」の「写真・イラスト」(<http://momiji.jpfi.go.jp/kyozai/Material/Photo/Index.php>)の中にも収められています。どうぞ活用してみてください。

有馬淳一
国際交流基金日本語国際センター専任講師

精心组织是完成任务的有力保证

日语教师在组织学生开展任务型的交际活动时，要像舞台总监那样精心做好各项组织工作，精心组织是完成任务的有力保证。

目前，大部分日语课的教学流程都是这样的：让学生听一遍录音→跟读→让学生对读→解释词义→训练句型→翻译→背诵→做作业。日语教学不能再沿用上面陈旧的套路，教师要勇于实践，在教育、教学方面有所创新，摸索新的课型、新的路子，这是我们日语教师的新课题。

任务型的交际性练习活动能充分调动全体学生的积极性，是对全体学生的尊重和关爱。只有全体学生的积极参与，才有可能逐步解决日语教育中长期存在的“大面积掉队”的问题。

教育、教学要组织全体学生参与完成任务型的交际活动或独立完成的活动。因此，开展活动时，要求把教学班的成员编成若干小组，完成根据语言材料设计好的诸多任务。

大量的任务是以小组的形式来完成的，精心编好小组是完成任务的前提。建议参考右表模式依据教学班的实际情况编组。

上课时，最好以小组为单位安排座位，避免教学秩序混乱。活动小组的组长可以通过民主选举产生。经常召开组长会议，听取他们的要求和建设，提出要求、布置任务。在一个阶段内，小组成员要相对固定，优势互补，总体水平保持一致，为公平竞争创造条件。任务完成后要作好记录，为评价积累数据和资料。小组和小组之间可以经常开展交流，为相互合作、相互尊重、相互关心、主动参与教学而增强各种能力。

在条件成熟的时候，可以总结经验、重新编组，以求学生有大

面积的交际活动。

初高中日语教材提供了许多生动的语言材料，为教师指导、组织学生开展各项活动创造了条件。每个语言材料都和一定的任务有关，熟悉、分析、理解、运用语言材料，设计切实可行的活动项目也是一项重要任务。

要求	理由
男女学生共同编组	培养学生和异性合作的能力，有利于青春期的教育。人数最好均衡。
语言能力强弱互补	有利于学生间的互相帮助，增强友谊，发扬团队合作精神。
不同性格互相照顾	性格外向型和性格内向型的学生相结合，有利于创造小组的活动气氛。
文体爱好互相感染	文体活动各有所长的学生相结合，有利于展开某些话题。
制作能力互相照应	有些任务需制作道具，制作能力强的学生可承担此工作并带动其他学生
组织能力强弱搭配	组内有组织能力强的学生，可以协助教师组织学生完成任务

张国强
中国教育学会外语教学专业委员会 秘书长、日语部部长